

※世界情勢の変化…18～19世紀

(1) 欧州諸国のアジア侵略

〈例〉イギリス→インド支配強化、清へ フランス→インドシナ地域へ

ロシア→北太平洋へ(1エカチェリーナ2世)、清とも接触 →日本へ

(2) 欧州世界の混乱 ナポレオン(仏)の領土拡大→2オランダ王国消滅(1793-1813)、英国と対立

ロシアとの関係と蝦夷地

[I] ロシア来航以前

※1778. ロシア船厚岸へ…松前藩が隠す

田沼 3 最上徳内らを蝦夷地探検に派遣

→田沼失脚で中止

寛政 4 林子平『5海国兵談』『三国通覧図説』

→1792. 5 処罰(版木没収、蟄居)

※林子平は1793. 6/21没

[II] ロシア船来航と幕府の対応

6 1792 . 7 ラクスマン (軍人・地質学者)が 8 根室 へ来航(9/3)

9 大黒屋光太夫 らの漂流民の送還と通商を求める …筆記は11桂川甫周

…伊勢の船頭 女帝エカチェリーナ2世と会見 漂流記『10北槎聞略』

→通商は拒否(1793. 6/27)、長崎への回航を要求(入港許可証を発行)

1798. 11 近藤重蔵 らを東蝦夷探検に派遣 →国後・択捉へ “12大日本恵登呂府”標柱

1799. 東蝦夷を幕府直轄化

1800. 13 間宮林蔵 を北方探検に派遣→樺太・シベリアへ

…14伊能忠敬に測量術を学ぶ 16間宮海峡の発見[1809]…樺太が島であることを確認

1802. 蝦夷奉行(箱館奉行)設置

17 1804. 18 レザノフ (貴族・毛皮会社重役)が19 長崎 へ

漂流民20津太夫(皇帝アレキサンドル1世と会見 『環海異聞』)らの送還と通商要求

→拒否 →樺太・千島各地で武力衝突[1806～07]→日露関係悪化

1807. 西蝦夷も直轄化…箱館奉行を松前奉行と改称 松前藩は陸奥へ転封

1811. 20 ゴローウニン (軍人 『日本幽囚記』)を国後で捕える } 22 ゴローウニン事件

1812. 21 高田屋嘉兵衛 (淡路：商人)、択捉で捕らわる } →緊張緩和、

1813. 双方の人質の交換 } 国境の確定

→方針を変更…蝦夷地を松前藩に返還[1821]、奉行も廃止 ※のち再設置[1855]

欧米船の接近と打払い ☆英・米の捕鯨船なども薪・水・食料を要求

1806. ²³文化の薪水給与令(撫恤令)^{ぶじゆつれい}…通商要求は拒否 薪・水・食料を与えて退去させる

↓
1808. ²⁴フェートン号 事件 ☆ナポレオン戦争が長崎へ波及
英軍艦、オランダ商船を追って長崎へ→薪水・食料を強要→長崎奉行 松平康英自害

↓
1825. ²⁵無二念 (異国船) 打払令 …清・オランダ船以外は理由に関係なく撃退
※前年(1824)に水戸(大津浜)・薩摩(宝島)で外国船の上陸事件

↓
1828. ²⁶シーボルト事件…帰国時に日本地図など所持→国外追放。天文方高橋景保獄死。弟子50人処罰

↓
1837. ²⁷モリソン号 事件…漂流者の送還と通商の要求→実力で撃退(浦賀・薩摩山川)

↓
→批判<例> ²⁸渡辺崋山『²⁹慎機論』(未公開) ³⁰高野長英『³¹戊戌夢物語』(匿名)
……田原藩家老・蘭学者・洋画家 …… 町医者・蘭学者 シーボルトに師事

↓
1839. ³²蛮社の獄 …鳥居忠耀(町奉行)による蘭学者の弾圧 崋山・長英ら処罰

↓
……³²尚歯会 (蘭学者グループ)への蔑称 他に江川英竜・川路聖謨・小関三英ら

↓
³³1840～42 ³⁴アヘン 戦争 …清の大敗

↓
1842. ³⁵天保の薪水給与令 …方針の転換

☆漂流民の帰国…³⁶ジョン万次郎(中浜万次郎帰国)1851、ジョセフ=ヒコ(浜田彦蔵帰国)1859、など

【正誤問題に挑戦】<1997年度日本試験より>

- (1) 大黒屋光太夫は、漂着してロシアから送還された後に、『赤蝦夷風説考』を著した。
- (2) 林子平は、ペリー来航を間近に見て、アメリカからの外圧に対する準備の必要性を説いた『海国兵談』を著して処罰された。